



【ゴールドウイング賞GⅢ】 出場予定選手

Table listing horse racing participants for Gold Wing GIII. Columns include classification (S, N, M, J, F, S, S, S), name, age, birthplace, start number, odds, and performance metrics. Includes sub-sections for specific groups like S級S班, 北日本, 関東, etc.

第105回生ルーキーチャンピオンレース(若鷲賞) 平成27年4月12日(日)西武園記念4日目 第9レース

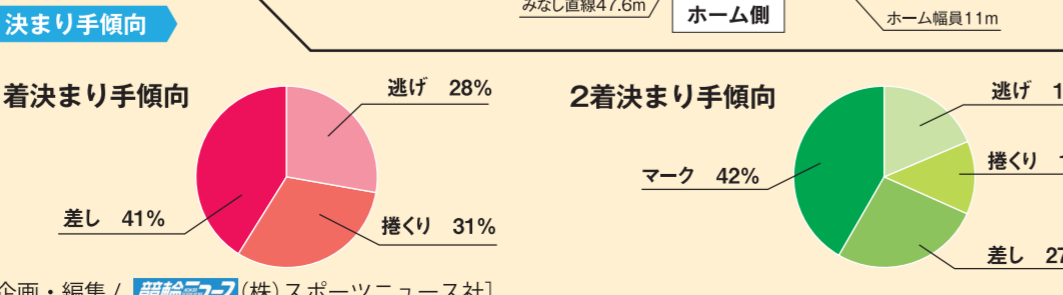
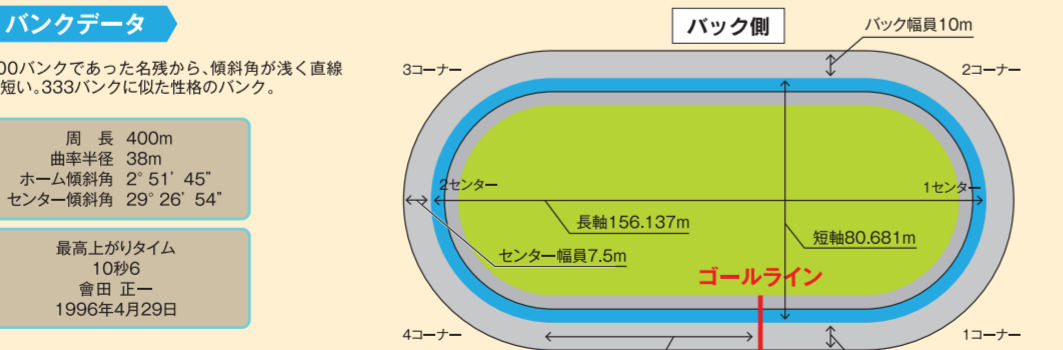
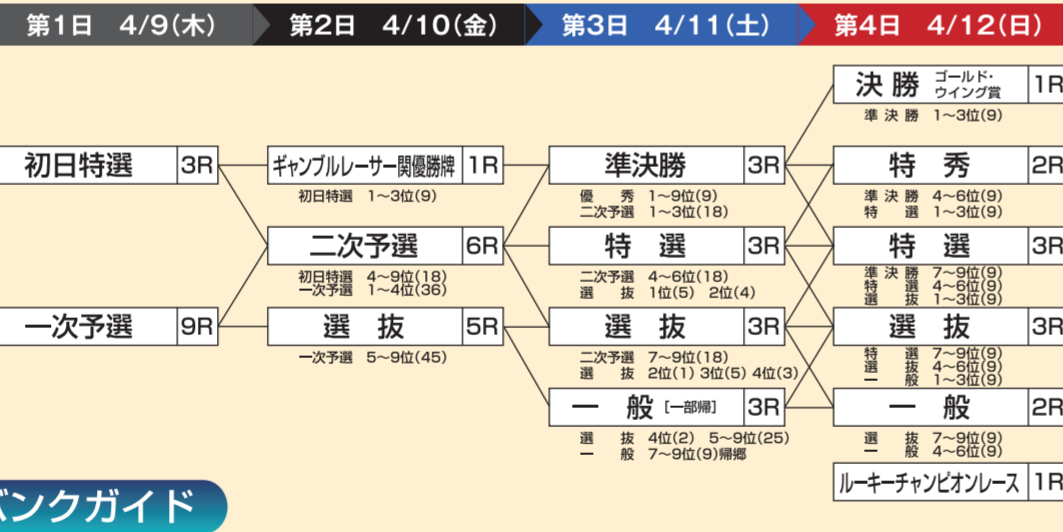


在校成績第1位の野口大誠には底知れぬ将来性を感じる。チャレンジ「卒業」後も優勝ラッシュに近い状態だ。次位には「急成長」渡邊雄太の名を挙げたい。現役の名レーサー渡邊晴智を叔父に持つだけあって新人らしき競走センスも光る。もちろん豪快な先行捲りが主武器なのだが、この手の一発勝負には脚力以外の何かも必要なのだ。現況の「勢い」ではこの2人の争戦戦線相なのだが、地域的な連係があるのなら話は別だ。畑段嵐土と野口正則の近畿、清水裕友と吉川嘉斗の中四国、堀兼壽と神田龍の中部と、前後どちらでも「自力-自力」の布陣となる。どこにも「二段ロケット」作戦ありの「夢」は一気に激戦「予想」に行き着く。なかでも野口大に次ぐ在校2位の畑段には期するものがある。堀も走るたびに「勝つ味」を覚えるような活躍で大いに魅力だ。また高木翔の胸の内も気になる。あくまで持ち味の自力なのか、強い渡邊雄太マークも頭にあるのか。展開を左右する重要な要素と特筆しておく。

【ルーキーチャンピオンレース】 出場予定選手 第105回生 ルーキーチャンピオンレース (若鷲賞) 選手選抜基準 Table with columns for name, age, birthplace, start number, odds, and performance metrics.

日本競輪学校第105回生卒業の選手であって、選考期間(平成26年7月から12月までの期間)終了時におけるルーキーチャンピオンレース開催時の在籍級が上位の者から、品性・技能ともに優秀な選手を運営調整部会において選抜する。

概定番組表



\*平成27年2月24日現在 \*平成27年2月28日現在のデータです。

Tokusen Racers 開設65周年記念 ゴールドウイング賞GⅢ



地元記念への「回制覇」の平原康多に凄味 数々の「名コンビ」が生まれた競輪界だが、平原康多と武田豊樹も間違いなくその一だ。互いに持ち合う類なき競輪センスのブレンドは絶妙で、バリエーション豊富な作戦を次から次へと繰り出す。「前後」はその時々で変わる。他の関東の選手との折り合いも影響するが、これは平原康多の地元だ。大宮で5回、西武園2回の計7回の地元記念優勝は半端じゃない。もちろん武田も展開一ツだ。こと西武園記念に関しては武田も平原と同様の2Vというプラス材料もある。

任巻セットの他にも関東地区には有力選手がズリ。クレーバ1自在の岡田征陽、職人気質の飯嶋則之、下迫力先行の相川永伍は武田や平原にとっても頼もしい味方だ。また地元3割増しの「競輪格言」にのっとれば苦劣人の岡光良、売出し中の徹底先行、土屋壮登などにも活躍の可能性ありだろう。稲垣裕之の渾身の逃げ、番手村上博幸が別線を強烈ブロックで止める。「そんな」に胸を躍らせる競輪ファンは少なくないはず。先行屋とマーク屋との絆でも言おうか、競輪の「原始的な快感を希求できるのがこの京都コンビなのだ。同郷の絆で結ばれた信頼の糸。己の「仕事」と己の「仕事」に徹するプロとしての連係を御覧あれ。

1月の大宮記念では勝ち上がり妙で平原康多、若津裕介の「87期」連係が実現した。ただ結果は平原優勝、若津は5着と暗黒を分けた。その悔しさを晴らす場所にして西武園記念だ。もちろん再度87期で並べる可能性は限りなく低いが、もともと単騎ゲリラ戦も苦にしない選手だし、S級S班の矜持も強く後押し。また阿竹智史との中四国セットが叶うならチャンスも拡がるというものだ。



どんな展開でも佐藤友和の捲りは注目的 良い意味で佐藤友和はビッグマウスである。競走前も競走後も立て板に水のように流暢に「競輪」を説明してくれる。捲りのスペシャリストと書けば適切に過ぎるが、佐藤は己の捲りを「信じている」選手だ。その信念が磁場となりファンを惹きつける。フインが長かろうが短かろうがたとえ単騎でもどんな状況でも「友和の捲り」が支持される所以だ。北日本地区は佐藤の他に堅実巧者の齋藤登志信や小野大介、カマシ捲りで頭角を現してきた安部晋之など、なかなか層が厚いことも付記しておきたい。竹内雄作はぶつっ叩いてそのままんだか強い」と記せば品のない表現だと叱られよう。しかしこれは先行選手に対しての最高の褒め言葉でもある。まだまだボカもある竹内だが、その勝ち方は説明不要のインパクトを見ているファンに与える。先行有利な西武園バンクでの記念競輪だ。格以上の数字を期待してもよからう。竹内マークで闘いたいのは山口富生や若本和也で、1人でも多く決勝に乗って中部ラインを長くしたい。南関ラインの浮沈は松谷秀幸の活躍如何だ。元プロ野球選手という恵まれた体軀をフルに活かしたバ1戦、スピード戦は大いに注目だが、まだ粗削りなところが随所に見受けられる。そこを補うべく南関地区のマーク選手の進出が欲しいところ。その筆頭格は渡邊晴智だ。17年前の当地F1開催で嬉しいS級初優勝、「アウト競り」駆使の完全優勝は鮮烈だった。以降シビアな競走を身上にスターダムまで昇りつめることとなる。今年から導入されたギヤ規制はダッシュ型の晴智にとっても明らかに西武園バンクでの激走に期待が膨らむ。中四国地区の目玉は吉本卓仁と小川勇介の福岡セットだ。2人は年齢も近く別れも近い(89期と90期)。気心の知れた仲だ。とも自力で闘っている選手なので個の力でも善戦可能なだろうが、「タテとタテ」の連係が叶えば威力倍増、俄然注目度アップのライン評価になる。

Pick Up SAITAMA RACERS [埼玉選手レポート]

埼玉 88期 S1 Tatsuya Fujita 藤田 竜矢 盟友・平原康多との地元連係は常に注目的

埼玉 94期 S1 Mitsuyoshi Oka 岡 光良 しぶとく、シツコク、激しい「マーク」戦法

埼玉 95期 S1 Eigo Aikawa 相川 永伍 風を斬る! 頼もしい限りの「先行迫力」

どこまで続く快進撃。怖いもの知らずの活躍だったのに、「S級1班」に昇格した途端やや失速気味。比例して先行回数も減少気味だ。ただ西武園は連対率5割を超える得意バンク。この数ヶ月の消化不良を吹き飛ばせ。